

主任者 コーナー

平成 28 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 57 回放射線管理研修会) のご案内



放射線安全取扱部会
部会長 上袁 義朋

平成 28 年度の放射線安全取扱部会年次大会（第 57 回放射線管理研修会）を、11 月 10 日（木）と 11 日（金）の 2 日間にわたって、古都鎌倉で開催いたします。

今回は関東支部が担当しますが、年次大会実行委員会のご努力により、初めて鎌倉市で開催されることになりました。都内の会場とは異なり、開催場所自体にも魅力があります。特に遠隔地から参加される方々には、大会だけでなく、続く週末にもご旅行をお楽しみいただければ幸いです。

年次大会・研修会は、放射線取扱主任者を対象にした唯一の集会です。日ごろ管理を担当されていると、出張する機会はありませんかと思えます。放射線管理に関する情報を集め、視野を広げ、同じ仕事をする方々との横のつながりを得る絶好の機会です。期間中には相談コーナーが設けられ、それぞれの事業所で抱えておられる悩みを、個別に相談することもできます。ぜひ多くの皆さまにご参加いただければと存じます。

勉強会の目玉として、例年通り原子力規制庁の担当官からは、放射線安全管理行政の動向と題して規制の現状や検討されている改革、最近の事故事例などのお話が伺えると思えます。この講演と密接に関係する、放射線利用における安全文化の醸成についてのシンポジウムも予定されています。

今年は放射線分野で明るいニュースが一つありました。昨年大晦日に命名権獲得が報道され、ニホニウム（Nh）と名前が決まりそうな 113 番元素です。これについて、発見をした実験グループの森本幸司

氏による特別講演があります。

放射線利用において一般の方の関心が高いのは、なんと言ってもがん治療です。シンポジウムⅡとして、最先端のがん治療と研究についての話題も提供されます。

今回の大会の大きな特色は若い方への期待です。その一つが、特別セッション「高校生による放射線研究発表」です。一般の方が正しい放射線の知識を持つことの重要性は、5 年前に発生して以来その影響が続いている東京電力福島第一原子力発電所の事故によって明瞭にされましたが、ここでその知識普及の明るい兆しを感じられることを期待しています。二つ目は若い方が参加しやすいよう、学生向けの大幅に安い参加費が設定されたことです（事前登録が対象です）。放射線利用への関心だけでなく、安全、さらには管理にも興味を持っていただける若い方が増えればと思います。

会場のある大船は、東海道線によって東京、横浜などから便利なだけでなく、現在は上野東京ラインによって、埼玉、栃木などからも直接結ばれています。大会後のお楽しみにも便利です。横須賀線に乗れば鶴岡八幡宮のある鎌倉は 10 分以内ですし、手前の北鎌倉には静かな雰囲気の間覚寺もあります。江の島行きの湘南モノレールも出ていますし、鎌倉、江の島、藤沢を結ぶレトロな雰囲気もある江ノ島電鉄も走っています。

多くの皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。いざ集え、鎌倉に！

（理化学研究所仁科加速器研究センター）